

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370104550		
法人名	社会福祉法人 一寿会		
事業所名	グループホーム海の見える家2号館		
所在地	岡山県岡山市南区小串823-1		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/33/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyouvoCd=3370104550-00&PrefCd=33&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社東京リーガルマインド 岡山支社		
所在地	岡山県岡山市北区本町10-22 本町ビル3階		
訪問調査日	平成28年12月13日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然環境に恵まれ、居室やホールからは瀬戸内海の美しい海が見える。家庭的な雰囲気の中で穏やかに安心して暮らすことができるよう、一人ひとりにきめ細かく対応した介護を心掛けている。職員が作る手作りの料理は、家庭的で皆様の満足度は高く、楽しんで召し上がってられます。共に食事をし、共に暮らす事で家族のような関係が生まれています。その中でその人らしい生活が続けられるよう努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

元市会議員の会長が、地域に貢献したいとの思いからグループホームを設立した。その思いは利用しやすい価格設定にも表れている。食費も低料金で提供しているが、品数は多い。消費税が上がった際、料金を見直す意見もあったが、価格は据え置き、利用者の負担増にならない選択をした。敬老会を2事業所合同で実施し、炭鉱節やどじょう掬いを皆で踊る等、地域、家族、職員、そして利用者が楽しい時間を一緒に過ごした。事業所内は、職員のアイデアから生まれた物入れを活用し、整理整頓されている。3食全て手作りされる料理は好評である。外出の際の弁当も、市販で買った弁当と見間違え程クオリティも高い。量も多いが利用者は残さず食べている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設玄関に事業所理念をかかげ、管理者、職員はその理念を共有、実践につなげている。	思いを込めて手書きした「いつも楽しくほがらかに」の理念を額に入れ玄関に飾っている。利用者は趣味のカラオケや工芸を楽しみながら過ごしている。訪問当日、賑やかに歌を謳う姿からも理念の実践が見て取れた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方がたびたび収穫された野菜など持って、たずねて下さり交流している。	会長が地域との架け橋となっていて、災害時の協力も得ている。毎年、キャベツや菊の生産者が収穫の際お裾分けしてくれる。新聞配達員から地元の催し物を教えてもらい、秋祭り時に訪れてくれ、利用者は毎年楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域では認知症の人の理解が得られ、秋まつりには、地域の方が施設を訪れて獅子舞、やっこさん踊りを舞って下さる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、ご家族から意見を伺い、サービス向上に活かしている。	3事業所合同で運営推進会議を実施している。敬老会と同日に運営推進会議を行い、参加してくれたボランティアや地域の方が出席してくれた。参加者が自分の病気体験を話してくれ、議題以外の話し合いが行われる良い機会となった。	運営推進会議の案内を、地域包括センターに遠慮して行っていなかった。参加者の民生委員から地域包括センターが市場にある事を聞き、次回から声をかけたいと考えている。参加の実現を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の開催の連絡を行い、より一層の信頼関係を築くよう努めている。	地域包括支援センターに空き情報を伝え、紹介してもらっている。独居の方が、外出したまま自宅に戻れず、保護された時等、地域包括支援センターから入居の受け入れ相談があり、対応している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	代表者、全ての職員は、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎年「身体拘束」について勉強会を実施し、身体拘束の具体的な行為についての理解を深めている。利用者が何度も一人で自宅に帰ろうとしても、玄関は鍵をせず寄り添う支援で対応に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は高齢者虐待防止関連法について学び、虐待が見過ごされる事がないように注意を払って防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、必要と思われる方に支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の内容や重要事項の説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族の意見を伺っている。又、外部者によるアンケートを実施している。	家族の要望には必ず対応する。例えば耳の遠い利用者の家族から「ラジオが好きだった」と聞けば、イヤホンを使うなど出来る限り実現する努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に会議を開き、職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている。	毎月行われるカンファレンスは、意見や要望を伝える機会でもある。管理者も介護の現場に立つので、支援を行う上での疑問点等が聞きやすい。毎週3事業所から各1名参加する勉強会は、意見交換の場にもなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者や職員の努力、実績、勤務状況を把握し、向上心を持って働けるよう、職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会をもうけている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を与えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族からの情報や、ご本人から話を伺って安心できる関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っている事など要望を伺って信頼を得られるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族に本当に必要とされているサービスか。他のサービスの利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人にとって必要と思われる事を手助けし、共に生活する関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の協力を得て共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援に努めている。	面会者は多い。前職の部下や飲み友達等が遊びに来て、昔話で盛り上がる。東京に在住の息子もよく訪れ、外食に連れ出してくれる。利用者は家族が連れて来た愛犬との再会を喜んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立しないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、ご本人ご家族の経過を伺って関係をつなげている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の暮らし方、意向を把握して、本人の意思を尊重している。	自分の思いを素直に言える利用者が多く、訪問当日も職員に伝えていた。意向を発せられない利用者には、表情や言動から汲み取っている。ほとんどの時間、居室で過ごすことを希望する利用者のために、寂しくないよう職員が週刊誌を置く等の気配りもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の今まで過ごしてこられた暮らし方、生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身の状態、有する力等の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスをもとにチームで現状に即した介護計画を作成している。	毎月全員のカンファレンスを行っている。利用者の検討内容を回覧し、全ての職員が共通の認識を持って、介護支援にあたっている。介護計画は半年毎に評価し、見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録により職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対応してサービスの多機能化を考えて行こうと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの訪問を受けて、心身に良い影響を受け、暮らしを楽しむ事ができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医は入居時に協力医を案内し、家族の意向を確認している。医師は平日1人、土曜日4人を診察してくれる。週の半分以上は訪れるし、発熱時等に連絡するとその日中に対応してくれるので、医療面では安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は情報や気づきを看護職に伝えて相談し、利用者が適切な受診が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、医療機関と情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と重度化、終末期に向けた方針を話し合い、理解が得られるよう努めている。	入居時に重度化した場合は、転居してもらう旨を納得した上で契約を結んでいる。急変時、家族に連絡を取っているが、救急搬送は職員が付き添う為、治療の決断を迫られる事が多い。運営推進会議でも延命治療を議題に挙げ、家族にアンケートを取る予定にしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時にどう対応するか職員間で話し合っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施している。	火事、地震、水害そして津波の状況に合わせた避難訓練を実施している。運営推進会議でも事業所の場所が災害指定区域になっているので、防災の話し合いはよく行われる。家族も「直ぐ救援に向かいます」と協力的である。	現在災害マニュアルを見直している。新聞に掲載されていた「災害時の対応一覧表」が誰にでも使いやすいと考え、現在作成中である。完成後、家族への提供にも期待を寄せる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない対応をしている。	職員は、個人としての尊厳に配慮した介護支援に努めている。親しい間柄ではあるが、年長者としての敬意を払った対応をしている。利用者が失便等をした時も、「便が出たね」とか言わずさりげなく処理をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思を尊重し、自己決定していただけるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の生活のペースに合わせた支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧される方、毛染を希望される方、洋服の組み合わせの相談にも応じている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人にできる事をしていただき、テーブル拭き、お茶を入れられたり、一緒に食事の準備を行っている。	3食全て手作り料理を提供し、利用者からは好評である。美味しい主食を提供したいとの思いから、毎回1日分を精米し、米の研ぎ方から水切りまで、細部に拘って炊いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分が摂れない方は水分量をチェック。少ない方には声かけをして一人ひとりの状態を把握して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の力に応じた口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりに対応した声かけ、見守り、介助を行ない、トイレでの排泄を支援している。	トイレでの排泄支援を大切にしている。夜間帯も、出来る限りおむつは使用せず、ポータブルトイレで排泄してもらう。利用者の様子を見ながら声掛けを行っている。自尊心に配慮し、利用者の出来ない部分のみを手伝っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの状態を把握して、その方に合った方法で予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の希望にそった対応を心がけている。	1日おきに入浴支援を行っている。冬場は、浴室内に熱いシャワーをかけて暖め、脱衣場には電気ストーブを置き寒さ対策をしている。不安感から入浴拒否だった利用者も、職員との1対1の会話が楽しみになり、今では拒否をあまりしなくなった。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり、生活習慣に合わせて安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や用法について理解して、服薬の支援と症状の変化を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの役割や楽しみごと、気分転換等の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望にそって戸外に出かけられるように努めている。	散歩に出掛ける機会は減ったが、天気の良い日は外のベンチで歌を謳ったり、敷地内にある畑で出来た野菜を収穫に行ったりしている。カラオケ好きの利用者は、家族が市民会館で行われるカラオケ大会に連れ出してくれる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設で管理しているが、ご本人の要望があれば使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人がご家族、ご友人に電話をかけられたり、手紙を出すことができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールではくつろげるように、トイレ等は清潔に気持ちよく使用できるように、玄関には季節の花を飾り、季節感を得られるように工夫をしている。	職員はダンボールや牛乳パック等の廃材を利用して収納箱を作成し、整理整頓をしていた。ゴミ箱をダンボール箱で手作りしているが、箱の周りに折った広告を貼り付けニスを塗り、売り物と見間違え作品に仕上がっていた。花好きの利用者の為に、至る所に花や観葉植物を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりに気に入りの居場所があり、くつろいで過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れた物や好みの物を置いて安心して過ごせるようにしている。	各居室は、整理整頓されており、明るく清潔感があった。家族は、利用者が退屈しないようラジオやテレビを持ち込んでいる。可愛がっている犬と同じ毛色のぬいぐるみを置き、いつも話しかけている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活できるように手摺りなどをもうけている。トイレなどにはわかりやすく表示している。		